

延岡地区租税教育推進協議会

銀賞

「私たちの生活を

豊かにする税金」

諸塚村立諸塚中学校

三年 山本 慎太郎

昨年に続き今年も大雨で地域の多くの道が土砂崩れや決壊のため通れなくなった。地域の人たちで協力して作業をしたが、自分たちにできることには限界があり、専門の業者の復旧作業が続いている。

道の工事は税金を使って行われていることを母に教えてもらった。工事は何のお金を使って行われているのか考えたこともなかったから、税がそのようなことに使われていることを知り、少し驚いた。

税が、自分たちの暮らしを直接支えるもの

になっていることを僕は知った。税は僕たちの負担にしかならず、あまり意味のないものだと思っていたが、その認識は間違っていたことに気づいた。

自分が住んでいる地域は田舎で、狭い道が多い。そのため、対向車が来た時に車二台が通れる幅のある場所までバックして通らなければならぬのだが、対向車が大きなトラックなどだった場合、幅のある場所まで長い距離をバックしなければならぬ場合もある。そのようなことになるのは面倒だから、道をもっと広げたいと思う人が地域に多くいた。すると、いろいろな場所で工事が行われて、次々と道が広くされていった。そうして、開けた道が数か所でき、以前より楽に通れるようになった。この工事も税を使って行われていたことを教えてもらい、僕達の身の周りでもたくさん税を使った作業が行われていることを知った。

普段は、買い物をするときに無駄なお金を支払わないといけないなどと思う税金でも、僕たちがより過ごしやすくするためなどに税金が使われている。身近なところで税が使われていることを教えてもらい、税は僕たちが安全で平和に生活するために大切なもので、

決して無駄なものではないということに気づいた。このことを知って、もっと税のことに気づいて知り、自分たちの暮らしにどのように関係しているのかなどを勉強したいと思った。

